

素材のチカラを 未来のタカラに

CSR報告書
2016





CONTENTS

戸田工業グループの経営理念とCSR方針	3
戸田工業グループの事業内容と歴史	4
経営者ごあいさつ	6
特集① 2016NEW環境展の出展報告	7
特集② カーボンナノチューブ(CNT)プラント竣工	8
特集③ 「べんがら館」オープン	10
投資家の皆様に向けて	12
1)コーポレート・ガバナンス	
2)重点市場	
3)戸田工業の製品と最終用途	
4)事業の概況(2015年度)	
5)IR説明会	
6)中期経営計画方針	
お客様、取引先の皆様に向けて	16
1)製品責任を果たすために	
2)お客様からの問合せへの対応状況	
3)人権を守るために	
社会へ向けて	19
1)マネジメントシステムの導入状況	
2)温暖化対策	
3)環境格付認定	
4)グリーン調達活動	
5)BCM・BCPIについて	
6)社会や地域とのかかわり	
7)生物多様性への取組み	
8)コンプライアンス	
従業員に向けて	26
1)働きやすさ	
2)安全・衛生活動	
3)クラブ活動	
4)研修制度	
組織図	30
拠点	31

経営理念、経営方針、行動指針

戸田工業グループでは、2014年度に経営理念、経営方針、行動指針を刷新いたしました。役員・従業員一同、日々これらの理念等に立ち返り、各自の役割・業務に当たっております。

経営理念

私たちグループは、酸化鉄で培った微粒子合成技術を深化させながら、永遠に生々発展します。誠実・信頼を基盤とし創造力と製造力を結集させ、魅力ある独創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献します。

経営方針

設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「もの作り企業」としての経営基盤を確立します。
Only1技術を磨き、付加価値の高い製品とソリューションを提供し続けます。
グローバルで必要不可欠な存在となり、グループの企業価値を向上させます。
従業員と家族の幸福を求め、ステークホルダーから常に信頼される存在となります。

行動指針

お客様のニーズにお応えする製品とソリューションをスピーディーに提供します。
製・技・販・管、全社一丸となって熱心に仕事に打ち込みます。
誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観を持って行動します。
個々の品格を高め、誇りと希望と夢を持ち続けます。
地域社会および地球環境との調和と共生に努めます。

CSR方針

戸田工業グループは、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に行うとともに、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内の諸規程、規則を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ち、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持ちません。

投資家の皆様に向けて

創造的な技術に裏付けされた質の高い成長による成果の蓄積・提供、透明で健全なコーポレート・ガバナンス体制および有効な内部統制の整備・運用により、投資家の皆様の理解と共感を得る活動に努めます。

お客様、取引先の皆様に向けて

お客さまから見た価値観を共有し、独自に開発した技術力を武器とし、志を同じくする取引先業者と、よきパートナーシップで連帯します。そして、誠心誠意、目標に向けて互恵の努力を続けます。

社会に向けて

コンプライアンス精神に則り反社会的勢力との関係を断ち、安全と地球環境への配慮を何物にも優先させ、地域社会と連携し国際社会との協調を図りながら、持てる文化資本をベースに、グローバルレベルの素晴らしい生活文化を作ります。

従業員に向けて

従業員一人ひとりの独創性と多様性が、私たちの財産です。その能力の限りない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。



戸田工業グループの事業内容

戸田工業グループは、酸化鉄の湿式合成から始まるナノテクノロジーをベースに事業展開しています。酸化鉄は鉄と酸素を中心とした元素の結合様式によって、色や硬さ、強度、磁性や物理・化学特性が異なります。

戸田工業グループの湿式合成技術の特徴は、酸化鉄を始めとする各種粒子の特性を制御し、求められる機能や特性に合わせて、各種素材を自在に作り分けることができることです。湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーの蓄積は、戸田工業のコアコンピタンスとなっています。

酸化鉄を核とした専門知識・技術・ノウハウの集積は、顧客の抱える課題に新しい角度から光を当て、素材の視点からの解決法・ソリューションを見出しています。

近年では、金属対応ICタグやRFIDアンテナシートなど、素材を熟知した戸田工業グループだからこそできる電子部材の開発・製造を進め、高度化する顧客のニーズに応えています。

これからも、戸田工業グループ一丸となり、素材を通じて、情報・環境・エネルギーを支えるソリューションを提供してまいります。



戸田工業の歴史

<p>1907年 広島市安佐北區に 工場移転(広島工場)</p> 	<p>1933年 広島市西区横川新町に 戸田工業株設立</p>	<p>1953年 東京営業所、 大阪営業所を 新設</p>	<p>1959年 山口県山陽小野田市に小野田工場を新設</p> 	<p>1971年 広島市西区横川新町に本社移転</p>
	<p>1936年 広島市中区舟入南に 本社・工場移転</p>	<p>1953年 硫酸鉄を焼成して酸化鉄を 製造する過程で、亜硫酸 ガスが発生、大きな問題 となる</p>	<p>1965年 酸化鉄を水溶液から化学反応に よって合成する湿式合成法の 開発により、公害問題を克服</p>	<p>1975年 舟入工場を研究・開発 専用事業所とする。</p>

創業
1823年

1910

1920

1930

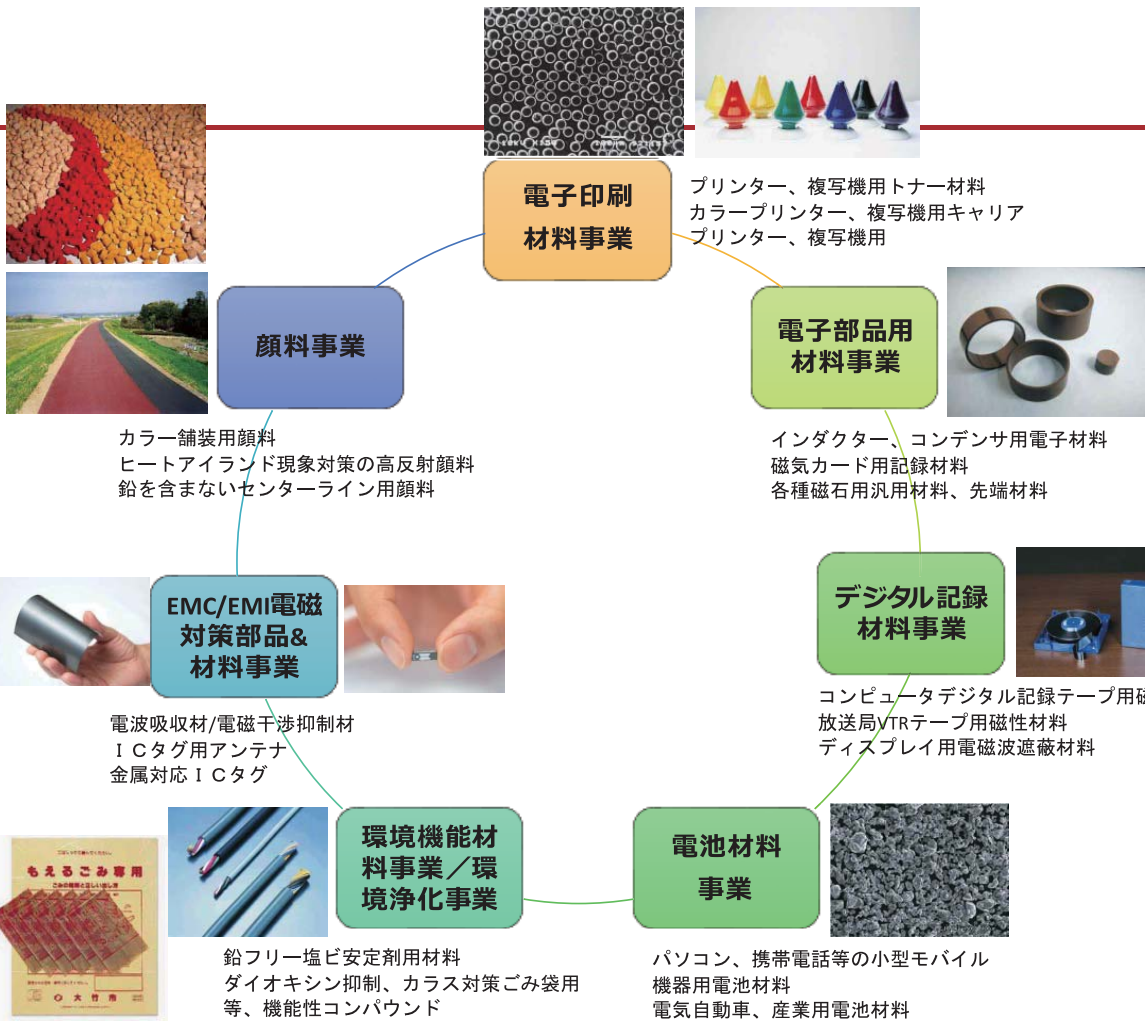
1940

1950

1960

1970

<p>1823年(文政6年) 岡山県井原市にて ベンガラ製造を開始</p> 	<p>人類最古の顔料、 ベンガラの工業的 製造から始まる</p> 	<p>1953年 京都大学との共同研究を開始。 ベンガラ製造が伝統的な“技能” から“技術”として位置づけられる</p>	<p>1953年 広島工場にフェライト 材料の生産工場を新設</p> 	<p>1969年 小野田工場にオーディオ・ ビデオテープ用磁性粉末 生産設備を新設</p> 	<p>1973年 小野田工場に 湿式法による着色顔料 工場新設</p> 
<p>建築の木材塗料 紺染めの下地 漆器 番傘の着色 陶磁器(赤絵の釉薬)等</p> 	<p>パウダー</p> 	<p>鉄鋼製品の製造プロセスから副産する硫酸鉄や 塩化鉄を原料として利用</p>	<p>産業廃棄物の削減、 資源の有効利用に貢献</p>	<p>業界初酸化鉄の 湿式合成法の開発</p>	
	<p>ペレット</p> 				



1983年
東京証券取引所
一部上場

1983年
広島市中区舟入南に
創造センターを新設

1984年
広島県大竹市に
大竹工場を新設



1991年
大竹工場内に
創造本部大竹を
新設

海外進出が
スタート!

1994年
「戸田工業ヨーロッパ GmbH」を
設立

1997年
「戸田ビグメント株式会社」設立

2000年
広島市中区舟入南に
本社移転

2001年
「戸田マテリアル株式会社」設立

2003年
大竹市に本社移転

2008年
「東京色材工業株式会社」の
株式を100%取得



2011年
日本政策投資銀行より
環境格付を取得

2014年
広島市に本社移転

2015年
「BASF戸田バッテリー
マテリアルズ合同会社」設立

1980 1990 2000 2010

1988年
小野田工場の電子印刷用
着色材料の専用生産設備
を新設

トナー材料

1989年
小野田工場にメタルテープ用磁性
粉末製造設備を新設

コンピュータ
デジタル記録テープ

1994年
ダイオキシン抑制
燃焼触媒の開発

湿式合成法を
鉄以外の材料
へ展開

1999年
小野田工場にハイドロ
タルサイトの製造設備を新設

ハイドロタルサイト

2003年
小野田工場にリチウム
イオン二次電池正極材料
生産設備を新設

2004年
小野田工場にチタン酸バリウムの
製造設備を新設

チタン酸バリウム使用例

1984年
大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1996年
大竹工場にカラートナー用
キャリア材製造工程を新設

2006年
大竹工場にICタグ用アンテナ
シートの生産設備を新設

2011年
大竹工場にスマートフォン用NFC
フェライトシート生産設備を新設

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例(ゴミ袋、緩衝材)

カラー用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート



代表取締役社長 たからぎ 寶來 茂

戸田工業グループは、磁器の絵付けやベンガラ格子などで知られる酸化鉄着色顔料の製造会社として江戸時代末期に創業以来、およそ200年の歴史を有する化学素材メーカーです。酸化鉄のトップランナーとして、多種多様な酸化鉄の製造はもちろん、微粒子合成技術を活かした素材やパーツを世界の先進企業をはじめとする多くのお客様に提供し続けてまいりました。

我々はメーカーとして、お客様のニーズに応える製品を継続的に供給することが重要な責務であると認識いたしております。またお客様や従業員、株主や地域社会の皆様に対する社会的責任も負っており、会社を生々発展させることを通じてこれらの責任を果たしてまいりたいと考えております。

現在、戸田工業グループでは、新しい中期経営計画であるTS2(Toda Step Two)を2016年よりスタートさせ、より強固な経営基盤を確立し高収益体質への転換に取り組んでおります。また同時に我々の獨創性に富んだ新素材およびソリューションの開発、提供を通じて、広く社会に貢献し、すべてのステークホルダーにとって価値のある存在として成長することを目指します。

ここに戸田工業グループが社会的責任を果たすべく行っている日々の活動をご報告いたします。本報告書を通じて、皆さまのより深いご理解を賜れば幸いです。



代表取締役会長 久保田 正

私が戸田工業の代表取締役に就任してから3年半が経ちました。この間、従業員にはボトムアップという言葉掛けて積極的に会社の体質強化に参加して貰ってきました。

会社の使命は「継続」です。継続こそが企業の使命であり、経営者の原点と考えています。戸田工業の出自は岡山県の西江原(現在の井原市)です。193年前に弁柄の生産者として産声を上げ、83年前に広島市で株式会社となりました。これからも従業員と共に努力を重ね、戸田工業グループが創業200年、250年を迎えられるよう、事業を継続すべく、ステークホルダーの皆様とも協力して、私達の責任を果たしてまいります。

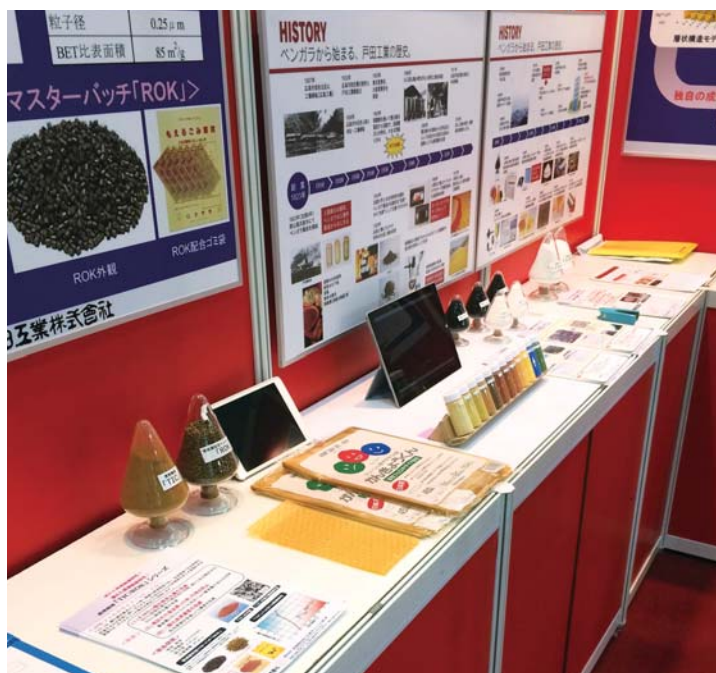
私達はミッションや目標を持ってその立場に就任しています。責任を取ると言うのは「約束した期限内にそのミッションや目標を達成する事」と思います。私のミッションは“会社を再建して、継続する会社の基盤を作る”事と考えて毎日Fair, Honest and Hard-workingの信条で努めています。本書にて私達の継続に向けた取り組み状況についてご説明申し上げます。

特集① 2016NEW環境展の出展報告

2016年5月24日～27日に東京ビッグサイトで開催された「2016NEW環境展」に出展致しました。業界関係者が一堂に会する本展示会で、戸田工業の環境関連商品のPRを行い、顧客ニーズを引き出すことで新たなビジネスチャンスを生み出す目的で参加しました。

戸田工業からは、土壌汚染・地下水急速浄化材RNIP(アールニップ)、セレンや砒素排水の処理材AMF、燃焼触媒TIC(チック)など、各種環境機能材や酸化鉄粉末を中心に展示し、来場者に説明を行いました。さらに、機能性酸化鉄を練りこんだゴミ袋や各種触媒材料もご紹介しました。

本展示会はアジア最大級の環境ビジネス展示会であり、今回も4日間の開催で、約16万人の来場者がございました。戸田工業のブースにも連日多くの業界関係者が訪れ、300名ほどのお客様と名刺交換をさせて頂きました。お客様からは、汚染土壌の浄化や水処理の問題、焼却コスト低減など、多くの課題を伺うことができ、マッチする可能性がある商品をご紹介してご関心を持っていただきました。今後、環境展のフォローアップをしっかりと行い、ビジネスへつなげて行く所存です。いま、オリンピック関連の土木工事や鉄道などのトンネル工事で発生する土壌や地下水に含まれる自然由来の重金属の流出防止、さらに工場跡地などの有害物汚染浄化が大きな問題となっています。こういった問題に対して戸田工業の環境機能材を展開し、社会に貢献したいと考えています。



特集② カーボンナノチューブ(CNT)プラント竣工

広島ガス株式会社(以下、広島ガス)の海田基地内において建設を進めておりましたカーボンナノチューブ(以下、CNT)の製造プラントが完成し、2016年4月15日に竣工式を行いました。プラントの生産能力は月間約500kgです。

<戸田工業社長寶來(左)と広島ガス山本取締役常務執行役員(右)>

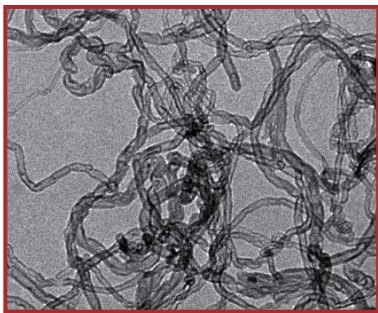


直接改質法により、天然ガス等の炭素源を含む炭化水素ガスから様々な特徴を持つCNTと水素が合成します。水素はクリーンエネルギーとして期待されており、広島ガス技術研究所では、生成した水素の回収や精製、用途開発を進めています。

直接改質法 $\text{CH}_4 \Rightarrow \text{C}(\text{CNT}) + 2\text{H}_2(\text{水素})$

▶ CNTとは

「カーボン=炭素」「ナノ=ナノメートル(nm)」「チューブ=円筒」と3つの言葉を合わせたものです。その名のとおり、炭素原子が網目のように結びついて筒状になったモノで、直径はナノメートル単位ととても細く、人の髪の毛の5万分の1の太さです。



CNTには下記に示すさまざまな優秀な特性を有しています。

- ・軽量で引っ張り強度が高く柔軟性がある
- ・耐食性、耐熱性がある
- ・熱伝導性がよい
- ・高電流密度の良導体である
- ・高移動度の半導体である
- ・比表面積が大きい
- ・高い電界放出特性を示す

▶ CNTの市場

CNTは様々な特徴をもっている半面、分散が難しい事から市場への普及が遅れています。戸田工業では、分散し易いCNTの開発に成功し、量産化の目途が付きました。

分散性に優れ、分散液の高濃度化も実現できる為、ユーザーからのサンプル要求が年々増えています。



<従来の難分散CNT粉によるCNT分散液>



<戸田工業開発高濃度CNT分散液>

CNTの電気伝導性、熱伝導性や補強性といった特徴を生かし、リチウムイオン二次電池(以下、LIB)やキャパシタ等への導電材、導電助剤用途を中心に、幅広い市場への展開を目指しています。

▶長年の湿式合成技術にもとづく触媒のコントロールおよび表面改質による易分散性を提案

活物質を繋ぐ繊維状CNT

LIB導電材 “導電性/繊維状”

易分散性CNT粉

高濃度分散液

5~10wt%

繊維表面のCNT

導電ゴム/面状発熱体 “極めて高い導電性”

多彩な特徴による多用途への可能性

戸田工業 MW-CNT 水性塗料標準配合

半透明導電膜 “導電性”

EDLC活材 “導電性”

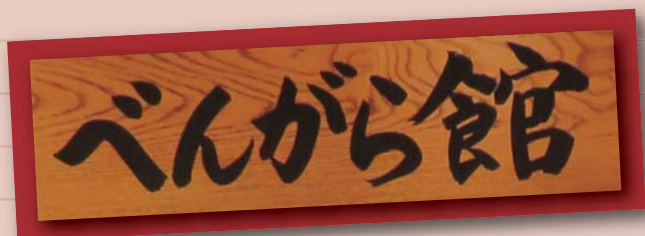
“しなやかな強度” 補強材

耐熱黒色顔料 “漆黒の黒/耐熱性”

<プロジェクト会議>



特集③ 「べんがら館」オープン





2015年11月30日に戸田工業創立記念日に合わせ「べんがら館」と称して戸田工業グループ 戸田ピグメント(株) (岡山県) 場内に近代べんがら産業が一般の方にも一目で見て分かる、資料館を開設しております。

当建屋は元来、場内の「資材置き場」として1958年(昭和33年)に建設されました。当時は、戸田工業の一端を担う基幹工場としてまだ乾式製造法でべんがらを製造していた時代です。その後、受電室として役目を変えて60年近く経ている建屋をそのまま改修し、活用しております。

建設当時、日本は高度経済成長期の真っ只中で、「東京タワーの完成」「皇太子明仁様と美智子様の婚約発表」があったのもこの年です。そのような時代から、工場をずっと見守ってきた由緒ある建物を解体せず、資料館として生まれ変わらせ、将来にわたって日本の文化である「べんがら産業・歴史」をささやかながら語り継いで行ければという思いで開設に至りました。

現在、戸田工業グループは現社長の下に創業200年に向けて「素材のチカラを未来のタカラに」というスローガンを掲げ、将来に向け生々発展し明るい未来を創造すべく、従業員一丸となって社会的な取り組みを進めております。



投資家の皆様に向けて

1)コーポレート・ガバナンス

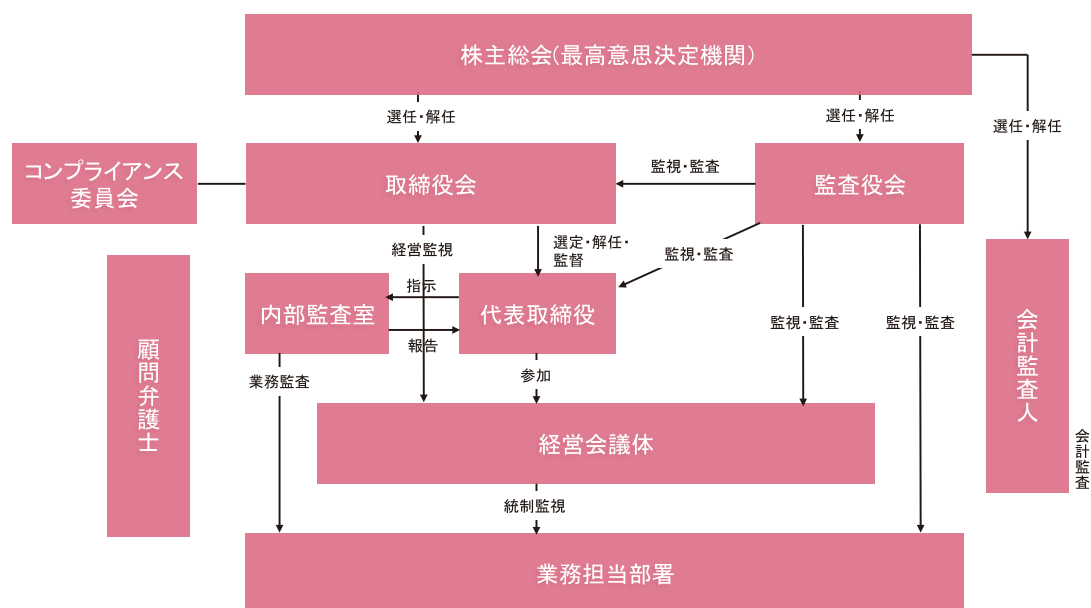
戸田工業は、企業経営の公平性・健全性・透明性・効率性を確保し、維持・推進するため、コーポレート・ガバナンス原則を定め、これを運用するとともに、下図のような経営体制を整えています。

コーポレート・ガバナンス原則

戸田工業グループは、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に進めてまいります。コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内規程等を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。さらに、反社会的勢力および団体との不適切な関係を持ちません。そこで、取締役会の機能である株主代表としての執行のモニタリング機能を強化し、透明性ある経営を推し進めるとともに、環境変化に迅速に対応できる俊敏なコーポレート・ガバナンスを目指して行きます。さらに、適切な情報開示により、株主および市の他のステークホルダーの権利と利益を平等に守るために、以下の原則を定めてその実現に努力します。

- ① 株主の権利の保護に努力します。
- ② 株主の平等性の確保に努力します。
- ③ 株主以外のステークホルダーとの円滑な関係の構築に努力します。
- ④ 情報開示と透明性の確保に努力します。
- ⑤ 経営の監督を充実させ、株主に対するアカウンタビリティが確保されるように努力します。

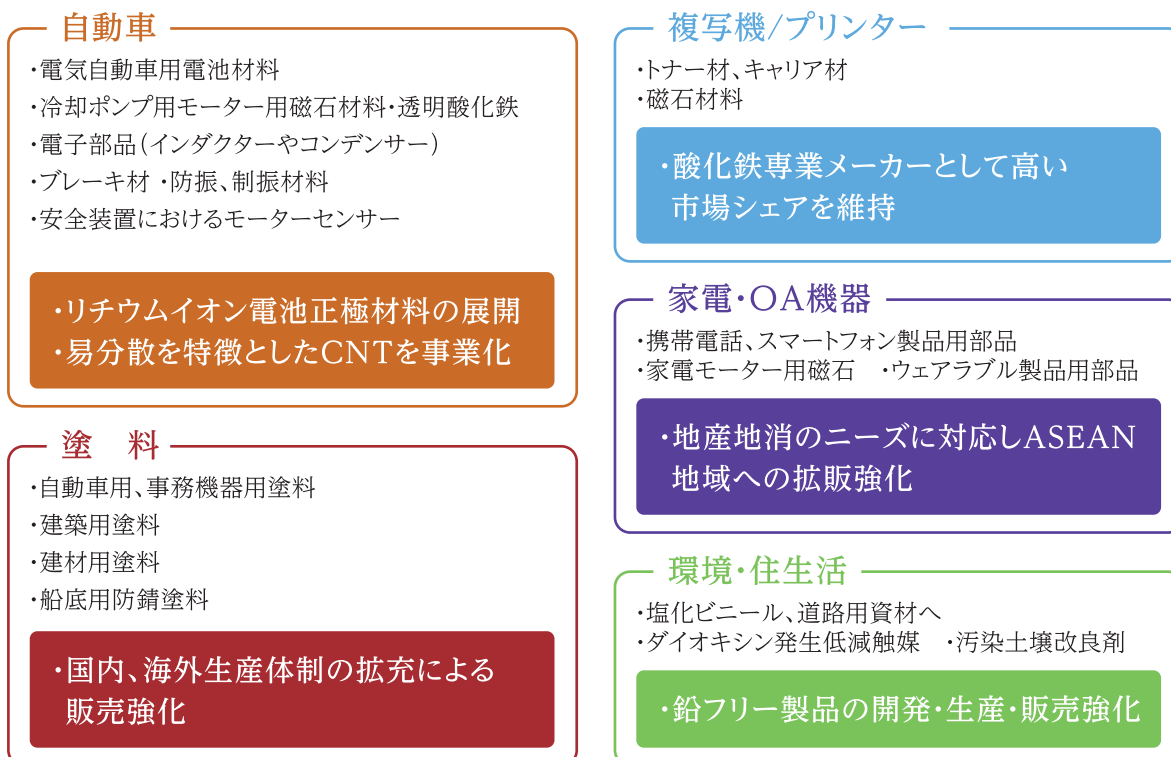
<コーポレート・ガバナンス推進体制>



2) 重点市場



3) 戸田工業の製品と最終用途



投資家の皆様に向けて

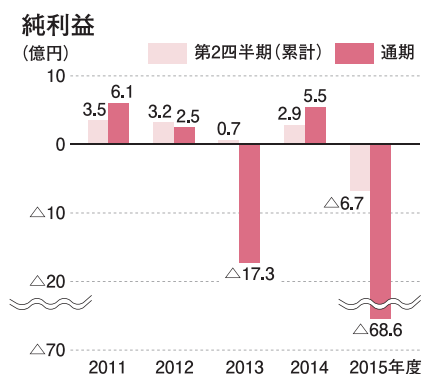
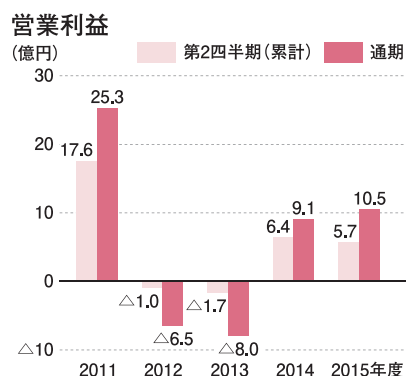
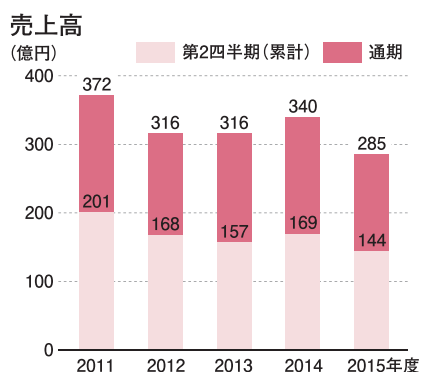
4) 事業の概況(2015年度)

今年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、企業収益の改善、設備投資の持ち直し等、緩やかな回復基調が続いております。一方、中国経済をはじめとした海外経済の減速、年明けからの急速な円高・株安の進行等、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

こうした状況のもと、戸田工業グループにおきましては、今年度において国内のリチウムイオン電池正極材料事業を持分法適用会社化したことにより、売上高は28,510百万円(前期比16.3%減)となりました。しかしながら、戸田工業が最優先の経営指標に掲げております営業利益率は昨年度から推進してきた原価低減・経費削減等により3.7%(前期比1.0ポイント増)と改善しており、営業利益は1,051百万円(前期比15.2%増)となりました。

なお、持分法による投資損失1,942百万円、為替差損607百万円等があり、経常損失は1,440百万円(前期は経常利益963百万円)となりました。また、持分法適用の非連結子会社から連結子会社への移行処理に伴い発生した段階取得に係る差損2,325百万円、電子素材事業の固定資産における減損損失1,879百万円、法人税等調整額1,328百万円等があり親会社株主に帰属する当期純損失は6,865百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純利益559百万円)となりました。

次年度の見通しにつきましては、今年度と同様に依然として先行き不透明な状況のもと、戸田工業グループにおきましては、継続的なコスト削減・持分法投資損益の改善に取り組み高収益体質への転換を目指します。また、磁石材料の海外市場の新規開拓、スマートフォン、ウェアラブル機器向けフェライトシート事業の拡大、電池事業の再構築等を推進し連結業績の拡大を図る所存であります。



5) 決算事業報告会

戸田工業では、投資家、アナリストや経済記者等を対象に、年2回IR説明会(決算事業報告会)を開催しております。

6) 中期経営計画方針

「TSO」(Toda Step One)

「TS2」(Toda Step Two)

時期

2016年度～2018年度
・収益を伴った確実な成長
・組織力の強化

経営目標

- ①売上目標(年率10%増)
- ②営業利益率8%
- ③事業子会社の再建計画実行
- ④発展成長事業への選択集中
- ⑤組織力強化

Toda Step One

(2013期中～2015年度)

基礎固め

- 営業黒字への体質変化
- 持分法損益の改善
- 不採算ビジネスの見直しと資産の正常化

- ・酸化鉄事業の維持拡大
- ・開発テーマの取捨選択
- ・原価低減、経費削減
- ・国内正極材事業の再構築
- ・赤字事業会社の立直し、撤退
- ・不採算銘柄撤退
- ・有利子負債の圧縮
- ・為替リスク対策
- ・組織再編

Toda Step Two

(2016～2018年度)

更なる成長

- ビジネスの拡大
- 高収益体質への転換
- 事業会社の改善推進
- 組織力強化(健全な組織)

- ・磁石材料の海外市場の展開強化
- ・フェライトシート事業の拡大
- ・事業会社のさらなる成長
- ・再建計画の策定実行
- ・企業価値向上への取組み
- ・北米正極材事業の再構築
- ・組織最適化の追求
- ・BCP対策

お客様、取引先の皆様に向けて

1) 製品責任を果たすために

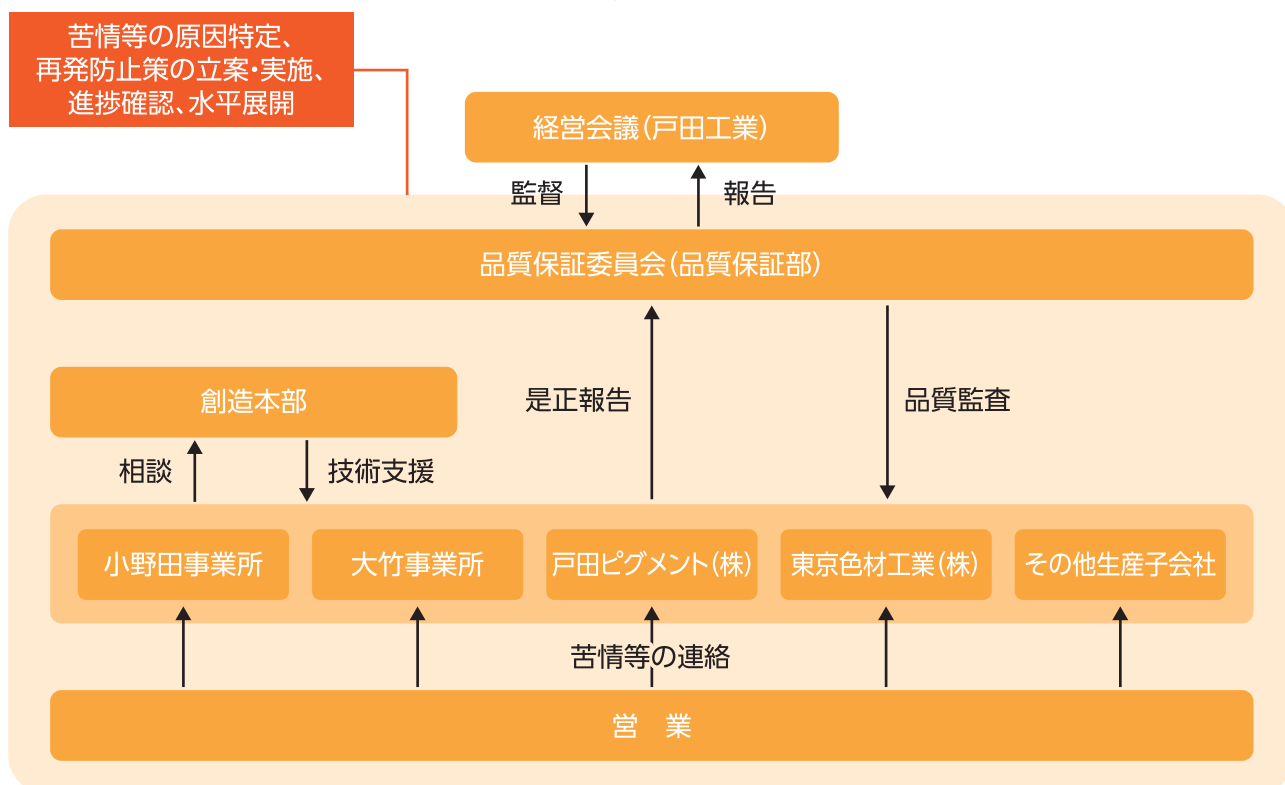
戸田工業グループでは、「継続的改善活動を展開し、顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」という品質方針を定め、以下の品質保証活動を推進しています。これらの品質保証活動を営業、開発、製造ラインから独立しより実効的に進めるため、2016年7月より、本社の品質保証部を社長直轄といたしました。

品質保証部では、戸田工業グループの製造部門に対する品質監査を行うほか、お客様からの苦情等に対する原因特定、再発防止策の立案・実施、水平展開の作業も現場とともに行います。

品質保証活動の指針

1. ISO-9001シリーズの要求事項の遵守を確認するとともに、品質保証システムのレベルアップを目的とした品質監査を実施しています。
2. 法規制およびその他の要求事項の遵守状況を確認しています。
3. 戸田工業グループの製品の品質向上のため、品質の分析、関係部門に対する改善指導および定期的な品質に関する検討会議(品質保証委員会)を行うことにより、総合的な品質改善を推進します。

<品質保証体系図>



2)お客様からの問合せへの対応状況

お客様からは、日々、製品やCSR等に関するお問合せをいただいております。戸田工業グループでは、これらのお問合せについて、自らを見直すよききっかけと捉え、迅速に100%回答することを目標に掲げております。また、その中で洗い出された課題について、対応する部署を決めた上で解決に向けて取り組んでおります。

▶品質管理

戸田工業グループでは最新の測定機器を導入し、優れた品質の製品を安全・安心とともにお客様へ供給しております。

また安定した品質の確保、お客様のご要望にお答えできる新製品の開発に鋭意取り組んでおります。



<大竹事業所小集団発表会の様子>

▶小集団活動

戸田工業では各事業所において現場の能力を最大限引き出し、「安全なくして効率なし。品質なくして信頼なし。変革(改善)なくして発展なし。」のスローガンのもと、協力会社含め小集団活動を積極的に行っております。また、この活動を通して現場の従業員の結束、意識・知識の向上とともに、発表会により現場間のノウハウの共有につながっています。



3) 人権を守るために

戸田工業グループでは、原材料の購入からお客様に製品をお届けするまで、サプライチェーン全体において、人権を尊重した取り組みを進めています。2010年度からは、CSR行動規範で明確に「人権の尊重」について定め、グループ全体における重点項目として、調達先へのモニタリング等にも取り組んでいます。

人権の尊重、雇用、労働 -CSR行動規範より-

戸田工業グループは、相互理解の前提となる基本的人権を常に尊重します。また、戸田工業グループは、人種、信条、性別、社会的身分、国籍、疾病、障害等による差別は行いません。

(1) 一切の差別の排除

役員および従業員は、個人の基本的人権を尊重し、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等、人権を無視する行為をしてはならない。

(2) 個人のプライバシーの保護

役員および従業員は、事業活動上社内外の個人情報に接する場合には、その取扱いに当たって、個人のプライバシーが侵害されることのないよう細心の注意を払うとともに、適切に管理しなければならない。

(3) 不当な労働の排除

役員および従業員は、不当な労働を排除しなければならない。また、各国・地域の法令が定める、雇用最低年齢には満たない児童を仕事につかせてはならない。役員および従業員は、戸田工業グループと同様の対応をご販売店・ご協力会社にも求めなければならない。

社会へ向けて

1) マネジメントシステムの導入状況

戸田工業グループでは、以下のマネジメントシステムを認証取得し、事業活動におけるPDCAサイクルを回しています。

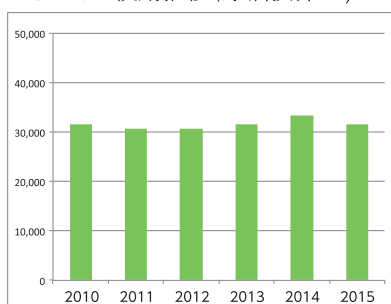
ISO9001 ISO14001 OHSAS18001	ISO9001 ISO14001	ISO9001
小野田事業所 大竹事業所	戸田ピグメント(株)	戸田磁鉄(深圳)有限公司
	戸田フェライト코리아(株)	大竹創造センター:商品開発G
	TODA ISU CORPORATION	ISO14001
	戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司	
	戸田塑磁材料(浙江)有限公司	大竹創造センター
	浙江東磁戸田事業有限公司	
	戸田聯合実業(浙江)有限公司 :浙江聯合顔料	
	Toda America Inc.	

※関連会社については持株比率50%以上を記載

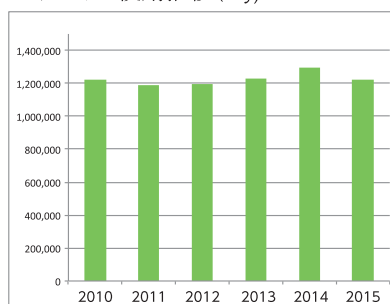
2) 温暖化対策

戸田工業グループにおけるエネルギー使用量と地球温室ガスに関するデータをご紹介します。エネルギー使用量の改善に向けた取組みを日々実施しております。更に取り扱う品目の変動等に応じたエネルギー使用量のコントロールを行っております。今後より一層の省エネ活動を推進してまいります。

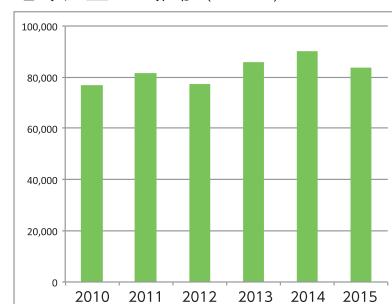
エネルギー使用推移(原油換算:kl)



エネルギー使用推移(GJ)



地球温室ガス推移(tCO₂)



※グラフの対象範囲は戸田工業株式会社における省エネ法定定期報告

戸田工業グループは、EcoVadis社(仏)によるサステナビリティ調査において、「シルバー」評価を2016年1月に取得しました。EcoVadis社は、110カ国、150業種に及ぶサプライヤー企業を対象に、「環境」、「社会(労働環境・人権等)」、「公正な事業活動」、「サプライ・チェーン」分野における企業の方針、施策、実績について評価を行っています。今回の調査におきまして対象企業全体の中で上位30%以内に入るという高い評価を得ることが出来ました。また、気候変動プログラム(CDP[※])への参加を通じ温室効果ガス(GHG)の削減を推進します。

※CDPIは、企業や都市の重要な環境情報を測定、開示、管理し、共有するための唯一のグローバルなシステムを提供する国際的な非営利団体です。

社会へ向けて

3) 環境格付認定

2013年度に、サステナブルな社会の実現に資する取り組みとして、企業の環境経営を支援する日本政策投資銀行 (DBJ) 環境格付を受けました。



4) グリーン調達活動・紛争鉱物に関して

戸田工業グループでは、調達方針の中で明確に「グリーン調達活動」および「紛争鉱物に関する基本方針」を定め、取引先の皆様の協力も得ながら、環境や人権に配慮した調達活動を行っています。

グリーン調達方針：資源保護ならびに環境保全に留意した調達活動を行います。

紛争鉱物に関する基本方針：

コンゴ民主共和国及びその隣接国において、反政府勢力による重大な人権侵害や環境破壊が生じており、世界的に深刻な課題となっております。この地域で産出される鉱物(錫、タンタル、タングステン、金)の一部には、これらの勢力の資金源となっているもの(以下「紛争鉱物」と呼びます)があるとされています。

そうしたなか、米国で成立した「金融規制改革法」(ドッド・フランク法)において、米国上場企業は、「紛争鉱物」の製品への使用状況などについて、開示することを義務付けられました。

戸田工業グループは、こうした人権侵害や環境破壊に加担する意思はありません。戸田工業グループは継続的に、お客様やビジネスパートナーの皆様、業界団体等と連携を図りながら取り組みを進めてまいります。

戸田工業グループは、お取引様に対して電子業界CSRアライアンス(EICC)/Global e-Sustainability Initiative(GeSI)により確立された紛争フリー製錬所プログラム※に準拠した製錬所、または、その他の信頼のおける鉱物の採掘から加工、流通の経路を追跡するトレーサビリティプロジェクトにおいて紛争に加担していないと認定された製錬所からの調達をお願いしております。

※ 紛争フリー製錬所(CFS)プログラム:製錬所が扱う鉱物が紛争に加担していない調達源であることを第三者が認定するプログラム。

5)BCPについて

BCP(Business Continuity Plan・事業継続計画)

日本列島は地震をはじめとする自然災害に多く見舞われる地域です。その他にも大火災・テロ攻撃等会社の事業に多大な損害を与える災害の恐れもあります。これらの緊急事態に遭遇した場合でも被害を最小限に留め、事業を継続しまたは早期復旧に努め、供給先に迷惑をかけず、市場・株主の信頼を損ねないことが重要です。

戸田工業はこれらの行動を迅速に行うため、BCPを策定し緊急事態に備えております。平時においてもBCPの計画に沿って緊急事態対応訓練、購買元・供給先との協議、代替生産手段の確保等を着実にっております。



防災教育・訓練

①広島市総合防災センター



②安否確認システムによる訓練

震度5強以上の強い地震が発生すると、自動的に登録されたメールアドレスに安否確認メールが送信されます。平時においても不定期訓練を行い実効性に努めております。

③レスキュースライダー(緊急階段避難車)

④防災講習会

気象庁 広島地方気象台による講習会風景



▶BCPを策定することのメリット(社内報より)

・災害に強い企業になる

BCPは、従業員の安全を守り、中核事業を守り、お客様の信用を守るためのものです。BCPの策定によって、企業が災害を生き抜く術を手に入れることができます。

・日頃からお客様等取引先の信用が高まる

BCP策定企業は、しっかりした企業と認識され、お客様等取引先からの信用が高まります。大企業の中には取引先に対してBCPの策定を要請するところもあります。

・従業員や協力会社等との連帯が強まる

BCPは、従業員や協力会社等と一緒に取り組むこととなります。企業を守る経営者の姿勢を示すことで、従業員の安心感を生み、協力会社等との関係を強化することにつながります。

・中長期の経営戦略を練る機会になる

BCPの策定は、優先すべき中核事業を絞り込んだり、経営資源の弱点を抽出したり、顧客や協力会社等との関係を再構築することとなり、経営戦略の立案そのものと言えます。

・優遇金利で融資が受けられる

BCP策定企業が防災対策を進める際の費用について、優遇金利で融資を受けることができます。政府系中小企業金融機関や一部の民間金融機関で取り扱っています。

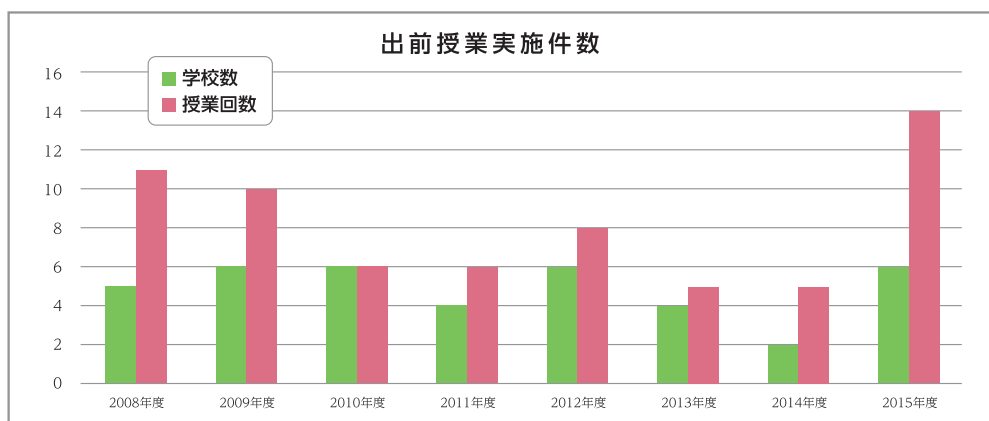


6) 社会や地域とのかかわり

① 出前授業、理科イベント

戸田工業では、2008年度から、広島県内の小中学生向けに工場見学会や理科の出前授業を行ったり、地域の理科イベントに参加したりしています。主な内容は、永久磁石やモーターを使った実験を、小学校高学年を対象として行っています。

子どもたちは、永久磁石にも色々な強さのものがあることを学んだり、紙コップとエナメル線コイルを用いて「手作りモーター」を作ったりすることで、永久磁石や電磁石について学び、さらに永久磁石や小型モーターが身の回りの自動車や電化製品にも多数活かされているということを知ります。特に、手作りモーターの製作、実験では、自分のモーターがしっかり回るように熱心に作業を進める姿が印象的です。今後も出前授業等の活動を通じて、子どもたちに理科への関心を深めていってほしいと考えています。



<出前授業の様子>



<理科イベントの様子>



② 花いっぱい運動

戸田工業の大竹事業所の最寄駅である「玖波駅」周辺では、玖波小学校の児童と地域の皆さんが中心となって花いっぱい運動という駅周辺の美化活動を行っています。戸田工業のメンバーも、2011年からこの活動に参加し、春と秋の2回、道路脇の花の植え替えを行っています。



社会へ向けて

③エコキャップ運動

戸田ピグメント株式会社(岡山市)では、2013年度から、事業所内や従業員の家庭で回収したペットボトルのキャップを近隣の岡山市立福渡小学校へ寄付しています。ペットボトルキャップ約2kgの売却益で、1人分のポリオワクチンを寄付することができます。地道な活動ではありますが、地域とのコミュニケーションという意味でもとても意義のある活動であるとの認識のもと、今後も継続していきたいと思えます。



7)生物多様性への取組み

戸田工業グループは、地球上の生物多様性を保全するために、以下の具体的な行動指針を定め、事業活動を推進しています。また、地域における生物多様性の保全に向けた取組みにも、川の清掃やイベントボランティアなどで積極的に参加しています。

生物多様性行動指針

1. 生物多様性の保全を企業における重要課題のひとつと認識し、環境経営に取り組む。
2. 原材料調達方針を含む事業活動が生物多様性に与える影響を把握し、その影響の継続的な削減に努める。
3. 自らの事業活動はもとより、サプライチェーンとも連携した省資源、省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を、継続的に推進する。
4. 生物多様性保全に寄与する製品の製造、技術開発、生産プロセス革新を推進する。
5. お客様、仕入先様、他の企業、NGO、教育・研究機関、地方自治体等とのコミュニケーションの拡充、連携・協力を努める。
6. 生物多様性の保全には従業員一人ひとりの活動が重要であることから、従業員への教育を通して、豊かな生態系の保護に対する認識を高める。

<各事業所 周辺環境の清掃・草刈>

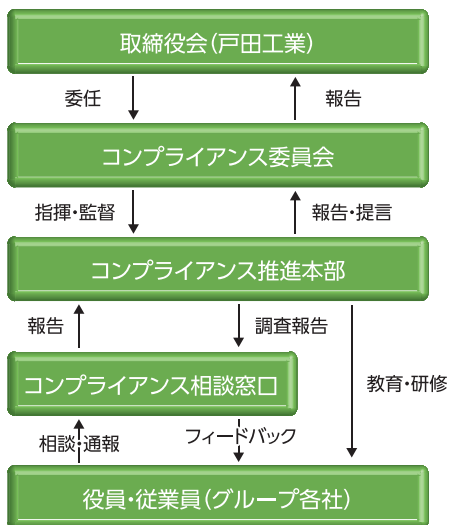


8)コンプライアンス

戸田工業グループでは、役員、従業員一人ひとりが法令や社会規範、社内規程などを遵守した行動ができるよう、グループ会社全体に適用される「コンプライアンス行動規範」および「コンプライアンス推進規程」を定め、コンプライアンスの推進・徹底に努めています。

ここでは、昨年開催した2つの活動をご紹介します。

<コンプライアンス推進関連体系図>



<知財講習会の教材>



①知的財産講習会

技術立社たる戸田工業では、知的財産に関する創作活動を奨励し、その適切な保護と活用に努めております。創作活動の中心となる開発者に知的財産、主に特許に関する正確な知識を習得してもらうために、昨年、知財特許グループが企画し、顧問弁理士の先生に講師をお願いして、知財に関する講習会を開催しました。

開発者だけでなく、テレビ会議システムを通じて、社内各部署の方も受講しました。講習会は3回に分けて開催され、「特許制度の概要」、「特許出願書類の作成手法」および「特許発明の技術的範囲」の各テーマについて、最新の知財に関する裁判例や戸田工業の出願事例などに基づいて説明していただきました。毎回約40名が参加しました。

受講後のアンケートでは、9割以上が「参考になった」と回答しました。具体的には、「普段の開発業務で行っている活動を再度確認できた」、「審査のトレンド、拒絶理由通知対応のポイント、公知資料選定のポイントと組み立て方が大変参考になった」、「特許侵害についてよく理解できた」、「継続的な特許出願の意義についても認識できた」などの回答があり、知財に関する理解が進んだものと思われまます。

知財特許グループでは、今後も社内講習会を継続開催し、知財活動を促進していく予定です。

②情報セキュリティ

スマートフォン、ノートパソコン等の普及やサイバー攻撃、コンピュータウイルスの多様化などによって、情報漏洩のリスクはあらゆる業種の企業にとって無視できないものとなっています。戸田工業グループにおいても、情報漏洩につながりかねない事象が発生したこともあり、情報管理の重要性を再認識しております。

戸田工業グループでは、昨年、情報セキュリティ教育の一環として、e-ラーニングを実施しました。10講座構成で、それぞれの確認テストを満点で修了するまで繰り返す方式のものでした。3ヶ月の開講期間に役員・社員433名全員が修了し、各自の情報セキュリティに関する理解が深まったものと思ひます。

情報システムグループでは、同様のe-ラーニングを今後も開講していく予定です。

従業員に向けて

1)働きやすさ

戸田工業グループでは、職場が従業員一人ひとりの活躍の場となるよう、諸法令に従った施策を実施するとともに、職場全体でよりよい環境作りを心がけるよう働きかけています。ここでは、「働きやすさ」という観点から、2名の従業員の声をご紹介します。

戸田工業ヨーロッパGmbH 高松 友則さん

2013年10月1日より東京オフィスからドイツ子会社へ営業として赴任しています。

戸田工業ヨーロッパGmbHはドイツ人2名・日本人4名というアットホームな職場です。

業務は営業ということもあり、ドイツ顧客中心にEU顧客とのコミュニケーションは重要で、言語だけでなく、文化の異なる顧客とのやり取りに苦労は尽きません。

しかし、現地のドイツ人上司・同僚には業務上だけでなく、公私共に相談に乗って頂けているお陰で充実した日々を送っています。

ここでは日本でやって来た事を更にEUという広い舞台でトライする機会を頂けていると感じています。

また従来にない発想・情報の発信や、新しい市場へのチャレンジは大変刺激的で、やりがいを感じます。

これからも戸田工業ヨーロッパGmbH-日本含むその他海外拠点 双方の思い、考えや協力要請を分かり易く伝え、私たちのグローバル拠点の連携を組む役割も果たして行きたいと思っています。

【取材:2016年1月】



生産本部 小野田事業所 河村 真理さん

小学校1年生と4歳の子供がいます。産休・育休・短時間勤務制度等を利用して仕事と家庭の両立ができ、部内の皆さんのフォローにも感謝の日々です。働きながらの子育てはとても大変なことです。社内には仕事と育児を両立されている先輩方がいらっしゃり、相談にのって頂けることもとても心強いです。



子供の急な病気・保育園の行事等で休む際も部内の皆さんのフォローで休みやすい体制を作って頂き、仕事と子育ての両立に理解のある会社であるからこそ、ワークライフのバランスが実現できていると思います。

今春、第3子出産予定で3回目の産休・育休取得予定です。会社の理解があつてこそその子育ての実現ができていますので、復帰後も働ける環境があることに感謝しながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

【取材:2016年1月】

2)安全・衛生活動

①安全活動

大竹事業所では安全活動の総括として、毎年「安全大会」を開催しています。工場の主な担当者に加え、協力会社の責任者また労働基準監督署長に御来席いただき盛大に開催しております。大会では安全活動の実績・労働基準監督署長による安全講話・安全宣言の採択などを行い、事業所の安全活動の推進をはかっております。



②安全ものづくり道場での活動

戸田工業は会社設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「ものづくり企業」を目指しています。継続した「ものづくり」は「人づくり」であり、一人ひとりが働きがいを感じて職場を活性化し、自律力と現場力を向上することが大切であると考えています。

安全・ものづくりセンターでは、その礎を「見て・触れて・考える」体感型安全教育という形で2014年10月から戸田工業グループ社員及び協力会社の方を対象に開催しております。

2015年度は、計22回、258名が安全道場を受講し、累計で対象者の約45%に達しています。



研修では体感だけでなく、基本である「5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)」の本質を学んで、自職場を変える決意を「行動宣言(目標)」して自職場に持ち帰ります。

数か月後に各受講者が設定した目標が達成できたかどうかを確認する仕組みを創ることで、振り返りによる意識改革を促したいと考えております。



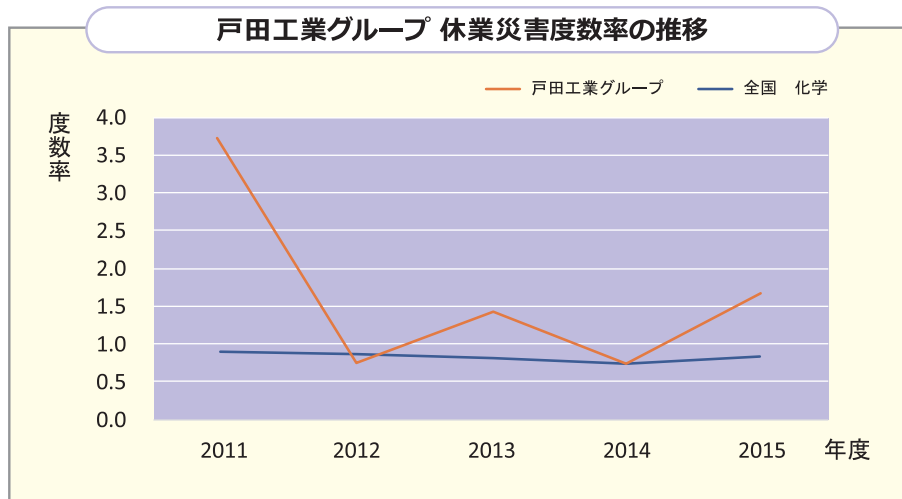
また、体感研修に「考える仕掛け」として、アルカリ液等の有害物が流れる液体配管の段替えや工事を想定した「配管液抜き」作業を追設しました。この体感を通じて、流体原理やバルブの構造について受講者自らが気づき・考えるカリキュラムを導入しています。

今後も引き続き安全体感研修の充実化を図るとともに、次のステージである、現場の異常に感度よく適応し、自ら問題解決できるものづくり道場の開所を目指し、現場力を向上できる道場の運営に取り組んで参ります。

従業員に向けて

③労働安全衛生

2015年度の休業災害は、グループ従業員は0件でしたが、場内の協力会社従業員で2件発生しました。本社：環境安全部、安全ものづくりセンター、各事業所の安全衛生委員会が連携して、労働災害ゼロを目標に引き続き努力して参ります。



※度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの。

3) クラブ活動

戸田工業では福利厚生の一環として社員同士の親睦・つながり、心と体の健康づくりを主な目的とする、充実した余暇を過ごすクラブ活動を推奨しております。

【クラブ活動紹介】

東京OFFICEでの“野駆部”と“スカット部”を紹介します。

野駆部は休日に登山や釣りといったアウトドアレジャーを楽しむ部活で、スカット部は平日終業後にオフィスから徒歩5分の港区スポーツセンターで汗を流す部活です。

▶野駆部

梅雨のさなか、筑波山に登ってきました。筑波山は関東平野にデンとそびえる百名山の一つに数えられる山です。標高877mと、百名山の中では最も低い山ではありますが、周りに高い山がないので、頂上からは関東平野を一望できます。この日は残念ながら雨の為、景色は見えませんでした。次回またリベンジに燃えております！

<野駆部 筑波山登山>



▶スカット部

バドミントンは、部員の成長が著しく、毎回白熱した試合になります。シャトルの音が「パシッ」ときまった時はかっこよくてしびれます。卓球は、逆に学生のたまり場のような雰囲気、ゆるくまったりと打ち合いをします。このまったり感の中でのコミュニケーションは世代を超えて盛り上がります。

<スカット部 バドミントン>



4) 研修制度

新入社員研修

入社後の研修イメージです。

教育制度の中でも新入社員研修には特に力を入れています。
研修期間中も一戦力として活躍します!

導入研修

※技術系・事務系関係なく、同じ研修を一緒に行う、集合研修です。
※学生から社会人へ気持ち・頭・体の切り換えを行い、会社・社会を知るための研修です。



- ・ビジネスマナー研修
- ・社内研修(会社組織、製品についての講義、諸制度の学習、工場見学 他)
- ・禅寺研修



現場研修(5月~9月までの5ヶ月)

※実際に職場を体感し、現場を知るための研修です。

製造事業所・開発センター・営業所で、モノづくりや開発、営業活動の基礎を学んだ後、各部署に仮配属となり、仕事を通じて実務知識を身に付けます。

正式配属決定(10月)

配属は、各人の適性と社内のニーズを照らし合わせて決定します。その後、本人の希望や社内ジョブローテーションにより、様々な経験を積みます。

育成研修・能力開発制度

OJT
職種別・能力開発

人財の市場価値の向上(市場で通用する人財)

国内大学等への派遣、資格取得援助制度、安全衛生・品質管理教育 等

OFF-JT
選抜教育

次期経営者／役職別／重点課題研修 等

自己啓発
通信教育援助制度

各種コースの中から、個人が自由に科目選択。優秀点で卒業すれば、受講料免除。

組織図



<会社データ>

社 名：戸田工業株式会社 TODA KOGYO CORP.

本店所在地：広島市南区京橋町1番23号 三井生命広島駅前ビル 9階

創 業：1823(文政6)年

設 立：1933(昭和8)年11月30日

資 本 金：74億77百万円

※2016年3月31日時点

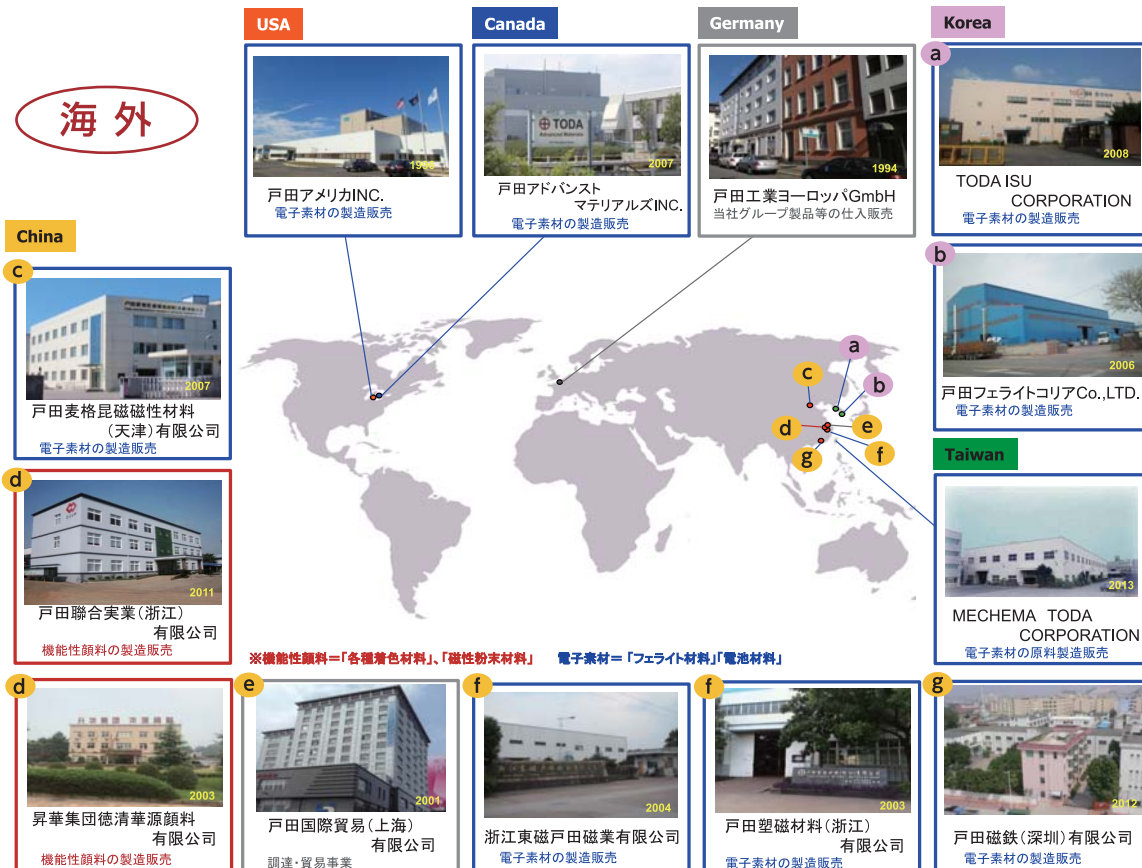
拠点

国内



※BTBM=BASF戸田バッテリーマテリアルズ

海外





戸田工業株式会社は、
サンフレッチェ広島を応援しています！



SANFRECCHE
HIROSHIMA FC



©1992 SANFRECCHE HIROSHIMA CORPORATION
©1992 S.FC